



極地研究所における「子連れ出勤」の 実態とその問題点

国際北極環境研究センター 照井 健志



「子連れ出勤」とは

- 親が職場に子供同伴で出勤する形態のこと(勤務ではない)
- 同伴した子供は、親と同じ職場で過ごすか、会社の託児所に預けられたりする
- 日本国内で「子連れ出勤」が論争になったのが1988年の**アグネス論争**
- 近年で「子連れ出勤」が注目された話題 (googleトレンドとニュースから調査)
 - 2010年9月22日、欧州議会のリチャ・ロンズリー議員が子連れで議会に出席する
 - 2015年5月11日、エルサレム大学で赤ちゃんをあやしながら講義をする教授が話題となる
 - 2015年6月17日、フジテレビ系「とくダネ！」が「子連れ出勤」を特集 (フジテレビのねつ造がバレて炎上した模様)
 - 2016年3月5日、IBMが誇る若き天才技術者が出産、赤ちゃん同伴で初出勤して大騒動、という記事が載る
- 第4次男女共同参画社会基本計画に「子連れ出勤」が記載される

・ テレワークの環境整備、サテライトオフィスの設置等場所の制約を受けない勤務形態や、在宅勤務、フレックスタイム制度の導入時における適切な労務管理の徹底及び子連れ出勤を可能とする職場環境の整備を促進する。

総務省、厚生労働省、国土交通省



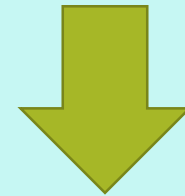
なぜ、私は「子連れ出勤」をはじめたか

現在までの出来事

- 2015年1月15日、子供生まれる、「**結節性硬化症**」と「**多発性腎嚢胞**」と診断される
- どちらも国指定の小児慢性特定疾病、遺伝子疾患のため根治不可能
- 2015年10月2日、**難治性癲癇**の治療のため、都立神経病院に入院、2015年11月30日に退院
- 2016年2月15日、東大病院へ転院、現在まで治療中

癲癇の治療中にやらなければならない事

- 保育園の通園は癲癇が収まるまで休み
- 決められた時間に、内服薬の投与
- 毎日の発作、睡眠時間、行動のモニタリング
- 発達を促すための刺激を与えること



24時間、子供を見張りましょう



私の環境と働き方

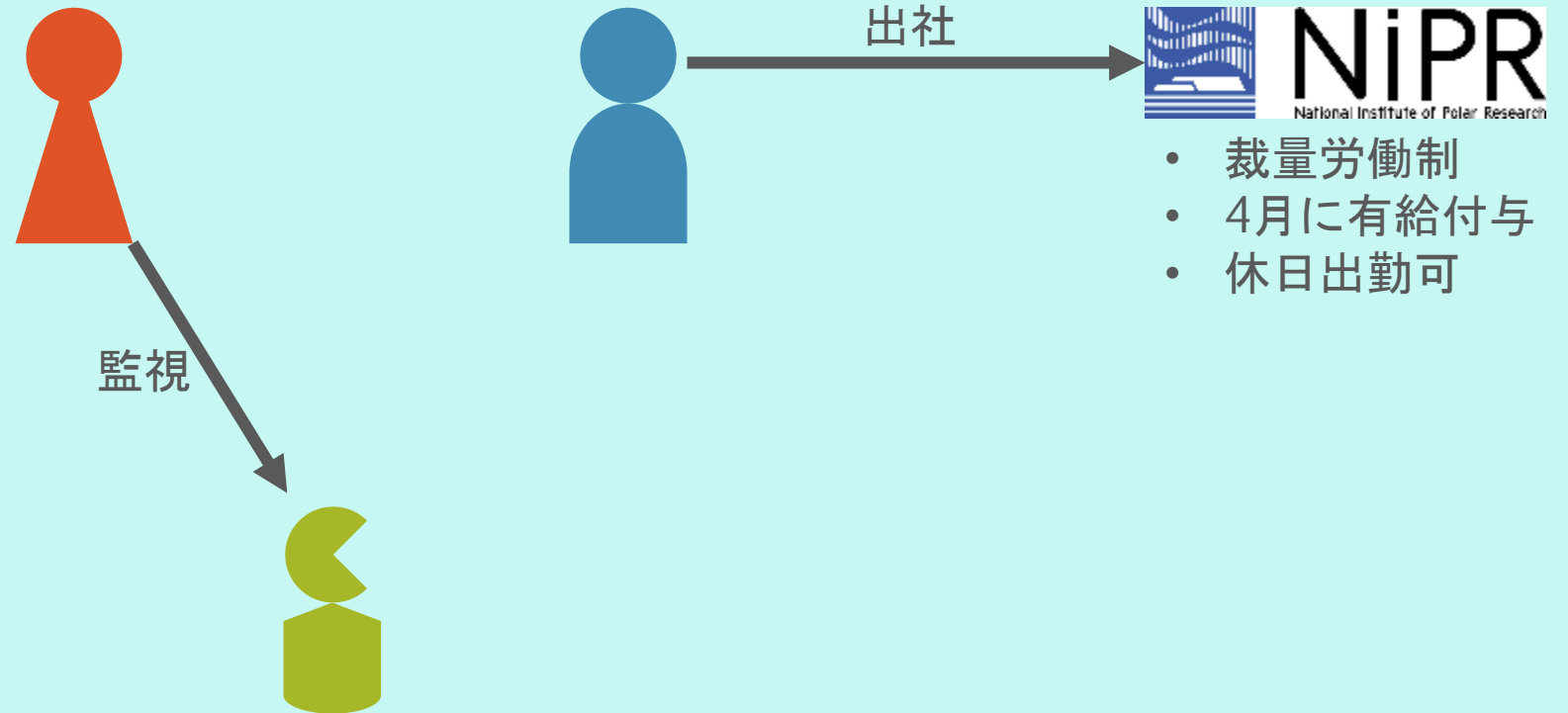
1. 共働き世帯
2. 近くに親類は皆無
3. 癲癇の判別が難しい

大手ITセキュリティ企業

- ・ 週2日まで在宅勤務制度
- ・ 時短勤務(勤務時間固定)
- ・ 休日出勤不可
- ・ 10月に有給付与
- ・ 妻の有給は病院入院時に、ほとんど消化

病院の寝泊りは基本的に女性
(東大病院)

パターン1, 妻が監視、夫が出社(週2回)



- ・ 裁量労働制
- ・ 4月に有給付与
- ・ 休日出勤可



私の環境と働き方

1. 共働き世帯
2. 近くに親類は皆無
3. 癲癇の判別が難しい

大手ITセキュリティ企業

- ・ 週2日まで在宅勤務制度
- ・ 時短勤務(勤務時間固定)
- ・ 休日出勤不可
- ・ 10月に有給付与
- ・ 妻の有給は病院入院時に、ほとんど消化

病院の寝泊りは基本的に女性
(東大病院)



パターン2, 妻が出社, 夫が監視(有休)

- ・ 3月から、これを週3日、継続していた
- ・ 夫の有給が4カ月後に枯渇することが判明
- ・ プランBが必要

出社



監視



- ・ 裁量労働制
- ・ 4月に有給付与
- ・ 休日出勤可



私の環境と働き方

1. 共働き世帯
2. 近くに親類は皆無
3. 癲癇の判別が難しい

大手ITセキュリティ企業

- ・ 週2日まで在宅勤務制度
- ・ 時短勤務(勤務時間固定)
- ・ 休日出勤不可
- ・ 10月に有給付与
- ・ 妻の有給は病院入院時に、ほとんど消化

病院の寝泊りは基本的に女性
(東大病院)



出社



出社



監視

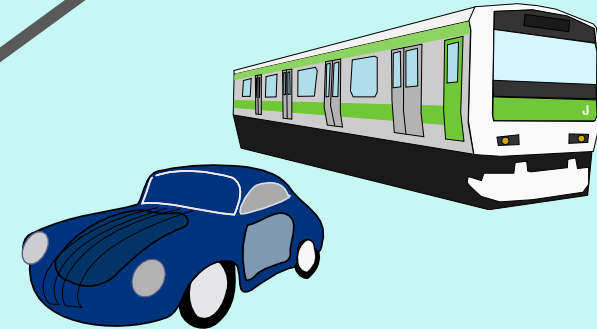


出社



NiPR
National Institute of Polar Research

- ・ 裁量労働制
- ・ 4月に有給付与
- ・ 休日出勤可



パターン3, 妻が出社、夫が子連れ出勤

- ・ 短時間なら研究室に連れて行っても大丈夫なんじゃないか？
- ・ 出社さえすれば、有休を消化しなくても済む
- ・ エレベータ、オムツ交換台、シンクが存在し、お湯がすぐ手に入る

「子連れ出勤」するようになってからの働き方

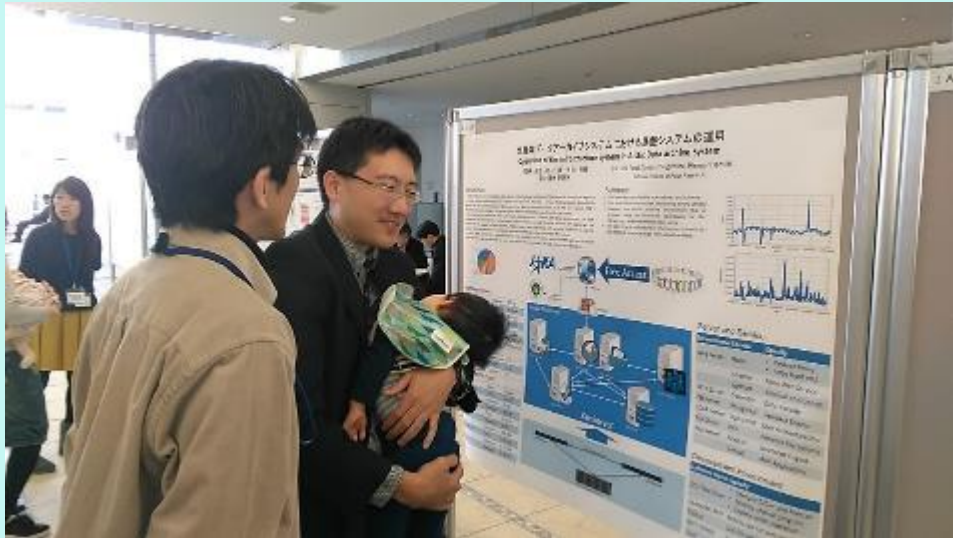
- 時間管理と仕事量を厳格に見積もるようになった
(**タスク管理とスケジュール管理**)
- 子連れ時は、打ち合わせやスモールタスクを中心に仕事を行うようにした
- 在宅時もハングアウトやSkype等を使うようにしてもらった
- スマートフォンでメールの読み書きと、資料の確認をするようになった(**BYOD**)
- 資料作成やコーディングの際に**ペアプログラミング**を行うようになった(要協力者)

	所内	所外
子同伴	<ul style="list-style-type: none">▪ メールチェック▪ 資料確認▪ システム管理▪ 会議(少人数)▪ セミナーの参加▪ 学会発表(ポスター)	<ul style="list-style-type: none">▪ メールチェック▪ 資料確認▪ システム管理▪ 公開シンポジウム参加
子不在	<ul style="list-style-type: none">▪ プログラミング▪ 資料作成▪ システムの構築▪ 会議(大人数)	<ul style="list-style-type: none">▪ 会議(外部)▪ 学会の参加▪ 遠隔地や泊りの出張

仕事の分類と子供のステータス



「子連れ出勤」の様子



「子連れ出勤」で判明、良かったこと、悪かったこと

良かった点

- 裁量労働制
- 事務機能が集約化されていた
- 建物に設備が整っていた(バリアフリー含む)
- 科学館や資料館などの建物があった
- 3F, 5F, 6Fに空きスペースがあった
- G Suitesによりリモートワークができた
- **周りの理解があった**

悪かった点

- 所内の会議で電話会議はあまり活用されていない
- オムツ交換台は1階南と科学館にしかない(計2台)
- 1階南の男子トイレは喫煙室の清掃で利用されるため、衛生環境は良くない
- 各階にある多目的トイレにシートがない
- 扉の**手動**開閉が多い(車椅子にとっても辛い)
- 危険物がその辺にある(子供にとって)
- オムツの捨て方のガイドラインがない
- 吐瀉物等の子供の汚染物のクリーニング手段がない
- 「子連れ出勤」の制度が無い



今後の展望と野望

- 「子連れ出勤」について考えてほしい
 - そもそも職員にこの制度の需要があるのか？（待機児童、学童待機児、長期休暇時）
 - 施設の安全上の対策や対応ができるか？
 - 職員の理解を得ることができるか？
- 立川の研究機関は、「子連れ出勤」のモデルケースとして、日本初を狙える
 - 一般的に大学や研究機関はバリアフリーも進んでいるとはいえない
 - おむつ交換台や多目的トイレが無い機関のほうが多い
 - 学術機関として大まかな設備がある
（実験室、講義室、観測棟、デスクワーク、セミナー、遠隔会議）
 - 設備面でクラウド化やBYODの装備もそろっている
- できれば在宅勤務制度も……

極地研究所の皆様には、
協力ありがとうございます。
今後も協力いただきたく、
お願い申し上げます。



2 女性研究者・技術者が働き続けやすい研究環境の整備

施策の基本的方向	
<p>多様な価値観や働き方を受容して働きやすい環境を醸成し、女性研究者・技術者が能力を一層発揮できるようにする。研究者・技術者が実情に応じて柔軟に研究活動を継続し、研究力を向上していくことができ、また研究と育児・介護等の両立が困難となった場合も、研究中断等の影響を最小限に抑え、円滑な復帰が可能となるよう、研究者・技術者の要望等を踏まえ、政府が行う競争的資金の運用、育児・介護等に配慮した研究者・技術者への支援、慣行の見直しや育児・介護等の負担に配慮した人事の運用など研究環境の整備等を行う。</p>	
具体的な取組	担当府省
ア 研究活動と育児・介護等の両立に対する支援及び環境整備	
① 大学、研究機関、企業等において、男女の研究者・技術者が仕事と育児・介護等を両立できるようにするため、長時間労働の解消、短時間勤務やフレックスタイム勤務、テレワークによる多様な働き方の推進、育児・介護等に配慮した雇用形態や両立支援制度の確立、キャリアプランや育児・介護等に関する総合相談窓口の設置、保育・介護サービスや病児・夜間保育の確保等を促進する。	内閣官房、総務省、 文部科学省 、厚生労働省、関係府省
② 大学、研究機関、企業等において、任期付きの研究者に対する育児休業制度等の周知を行うとともに、育児休業等を取得しやすい職場環境の整備及び意識改革を進めることで利用を促進する。	内閣官房、総務省、文部科学省、厚生労働省、関係府省
③ 大学、研究機関、企業等におけるその他の研究関係従事者についても、その分野の特性や実情等を踏まえた上で、仕事と育児・介護等の両立支援策を整備する。	内閣官房、総務省、文部科学省、厚生労働省、関

文部科学省は、
子連れ出勤に言及がない



BYODとペアプログラミング

BYODとは、

- **BYOD** (*Bring your own device*)は、従業員が個人保有の携帯用機器を職場に持ち込み、それを業務に使用することを示す。日本語では、私的デバイスの活用。

ペアプログラミングとは、

- 2人のプログラマが1台のワークステーションを使って共同でソフトウェア開発を行う手法である。コードを書く人「ドライバー」、もう一人を「ナビゲーター」と呼ぶ。ソフトウェア開発だけではなく、論文や資料作成時に有効な作業方法。
- プログラムの正確性が向上し、トータルの作業効率が上がる。
- ペアで同じ操作画面を見ながら、デバック作業を行い問題解決を行う。

